

7月4日（木）、4年2組で国語科の努力点公開授業が行われました。単元は、「伝えたいことをはっきりさせて書こう」です。組み立て表を作ったり、感情についての表現の工夫を考えたりすることが目標です。

あらかじめ、組み立て表の「始め」「中」「終わり」のそれぞれの段落に、題名を付けておきました。そうすることで、文章の大まかな内容を確認したり、文章の筋道がずれないようにしたりしました。

組み立て表に、内容を箇条書きで書きました。ワークシートの枠の大きさを工夫することで、児童はメモを長々と書かず、端的に書くことができました。また、ワークシートの裏面に、「どんなことを思った?」「どんな気持ちになった?」といった質問が書かれているので、どのようなことを書けばよいのか分からない児童も、質問に答える形で内容を書くことができました。途中、教師が、「組み立て表に書いていることと、題名がずれていないか確認をしましょう」と指示を出しました。文章の筋道がずれないようにするためです。このように、ワークシートを工夫したことで、児童は自分で組み立て表を書き進めることができました。



【組み立て表を書く児童】

次に、グループになり、組み立て表を読み合います。グループで読み合うことで、自分では気付かない間違いに気付くことができます。また、「このとき、どう思ったの?」や「どうやったの?」と質問することで、内容が詳しくなります。



【グループで読み合う児童】

ところで、4年生では、朝の学習タイムで「感情作文」を書いています。「感情作文」とは、ある感情をテーマに文章を書く際に、感情をそのままの言葉ではなく、工夫して表す作文のことです。例えば、「うれしい」という感情をテーマにしたとき、ただ「うれしかった」と書くのではなく、「心がはずんだ」や、「笑顔になった」のように表現します。そうして、感情を表す言葉集めをしています。

この「感情作文」を参考に、組み立て表の中から、感情について書いた部分に着目させ、表現の工夫を考えさせました。児童は、「緊張した」を「手が震えた」と表したり、「恥ずかしかった」を「顔から火が出るようだった」と表したりして工夫することができました。



【「感情作文」を見る児童】

今回、ワークシートを工夫して、自分で学習を進められるようにしたり、グループで互いの組み立て表を読み合わせることで、内容がより詳しくなるようにしたりしました。今後は、このように、子どもが主体となって学習を進める授業スタイルが主流となります。今後も引き続き、子ども主体の授業について研究を進めてまいります。